

各病院の医療提供体制の見直し等に係る検討状況について

## 令和元年度 第1回最上地域保健医療協議会（地域医療構想調整会議）資料

## 1 現状と課題

## (1) 患者数

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（9月まで）
外来患者延数（人）	185,751	186,369	185,443	92,385
1日平均患者数（人）	761.3	760.7	756.9	751.1
入院患者延数（人）	115,535	115,321	111,219	53,644
新入院患者数（人）	6,812	6,777	6,692	3,431
平均在院日数（日）	16.0	16.0	15.6	14.6
病床稼働率（%）	82.0	81.9	78.9	75.9

- ・外来患者延数は減少傾向にあるが、平成28年度以降は減少数が縮小している。
- ・入院患者延数は、新入院患者数の減少及び平均在院日数の短縮により、年々減少している。令和元年度については、新入院患者数は増加しているものの、平均在院日数の大幅な短縮のため、入院患者延数は昨年度同時期を下回っている。

## (2) 職員数（毎年度5月1日時点）

所属・職名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
医	師	46	44	46	
研	修	1	2	2	
第 二 診 療 部	リハビリテーション室	理学療法士	10	10	10
		作業療法士	5	5	5
		言語聴覚士	3	3	3
		小計	18	18	18
	栄養管理室	管理栄養士	5	5	5
		調理技能員	17	16	15
		小計	22	21	20
	計		40	39	38
	診療機材部	臨床工学技士	4	4	4
	薬剤部	薬剤師	14	14	13
検査部	臨床検査技師	21	21	21	
放射線部	診療放射線技師	13	13	13	
看護部	看護師	289	292	288	
	視能訓練士	1	1	1	
	計	290	293	289	
事 務 部	総務課	事務職員	14	15	14
		行政技能員	1	1	1
		技術技能員	2	2	2
		施設技能員	4	4	4
		小計	21	22	21
	医事経営相談課	事務職員	10	10	9
		診療情報管理士	4	4	4
		看護師	3	3	4
		社会福祉士	1	1	2
		小計	18	18	19
計		39	40	40	
総計		468	470	466	

- ・常勤医師が定数を下回る状況が続いており、大学医局に対する働きかけなどを行っているが、現状維持が精一杯な状況である。
- ・初期臨床研修医については、募集専用サイトを立ち上げて本院の運営発信を行うとともに、全国各地で開催されるレジナビフェアへ参加し、募集活動を展開しているが、研修医の採用は厳しい状況となっている。（採用実績：H28-0、H29-0、H30-2名、H31-0）
- ・当院職員（医師を除く）は県及び県病院事業局で採用試験を実施するため、現在のところ退職職員の補充等についての大きな問題はない。
- ・長期休暇取得看護師等の代替職員（臨時職員）は本院独自で募集しているが、応募が少なく、必要数の確保が困難な状況にある。

### (3) 経営状況

（単位：千円）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
医業収益	7,184,426	7,274,656	7,311,589
（入院収益）	(4,962,387)	(5,001,093)	(4,924,203)
（外来収益）	(1,934,002)	(1,990,568)	(2,121,076)
医業外収益	1,120,292	1,098,586	1,119,750
医業費用	8,101,100	8,009,061	8,336,101
（給与費）	(4,766,797)	(4,652,486)	(4,980,440)
（材料費）	(1,492,573)	(1,531,455)	(1,560,083)
（経費）	(1,196,402)	(1,249,702)	(1,242,391)
医業外費用	225,643	228,388	227,792
経常損益	▲ 22,025	135,793	▲ 132,554

#### ① 医業収益

- ・入院収益は、診療単価上昇により順調に増加してきたものの、入院患者延数が減少しているため減収傾向にあり、令和元年度も同様となっている。
- ・外来収益は、患者数は減少傾向ではあるものの、診療単価の上昇分が患者数の減少分を上回っており、平成27年度以降は順調に増加している。令和元年度についても、患者数は僅かに減少しているものの診療単価が大きく上昇しているため、昨年度同時期よりも増収となっている。
- ・以上により医業収益については、入院収益が昨年度よりも減少しているが、外来収益が増加していることにより、全体として昨年度を上回っている。

#### ② 医業費用

- ・給与費は、給与改定等により増加傾向にある。
- ・材料費は、高額薬品の使用等により増加傾向にある。
- ・以上により医業費用については、年々増加傾向にある。

#### ③ 経常損益

- ・入院患者延数の減少及び給与費の増加等により、厳しい経営状況が続いている。そのため、本年11月に病棟再編を実施することにより、経営の効率化を図り、一層の経営改

善に努めているところである

- ・今後とも新病院の整備・移行を着実に進め、病院機能の強化を図っていくとともに、持続可能な病院運営に努め、地域の基幹病院としての役割を果たしていく。

## 2 検討事項

### (1) 改築整備について

①開院時期（予定） 令和5年度（2023年度）

#### ②改築整備の概要

○診療科目の充実・強化

新病院では新たに9科を新設し、計27科を標榜する予定としている（別添資料のとおり）。

○病床機能の見直し

新病院の病床種別・病床数は以下のとおり。

（平成29年度地域医療構想調整会議WGにて承認）

病床種別	現病院 （～令和元年10月）	現病院 （令和元年11月～）	新病院
<b>一般病床</b>	<b>386床</b>	<b>341床</b>	<b>321床</b>
地域救命救急センター	4床	4床	10床
地域包括ケア病床	40床	40床	50床
その他一般病床	342床	297床	261床
<b>感染症病床</b>	<b>2床</b>	<b>2床</b>	<b>4床</b>
<b>計</b>	<b>388床</b>	<b>343床</b>	<b>325床</b>

※現病院の「地域救命救急センター」4床はICU病床

○病床数の見直し

現病院及び新病院の病棟別病床数は裏面のとおりに。

### (2) 新病院移行のための段階的な入院診療体制の見直しについて

#### ①目的

- 新病院（325床）への円滑な入院診療体制の移行を図る。
- 入退院支援機能を強化し、患者サービスの強化を図る。
- 現在の病床利用率の状況を踏まえ、経営の効率化を図る。

#### ②内容

- 新病院の病床数を見据え、各診療科の病床配分を見直し、急性期病床を45床削減し、388床から343床とする（標榜診療科の増減はなし）。
- 上記に伴い8つの病棟のうち1つを休棟し、各病棟の病床数を調整する。
- 看護職員を再配置し、入退院支援機能の強化や新規加算の取得による経営改善を図る。

#### ③実施時期

令和元年11月1日

別紙

## 現病院の病棟別病床数（病棟再編後）

病棟	診療科	計
第1病棟	内科（消化器）、小児科、眼科	46
第2病棟	内科（消化器：女性）、産婦人科	43
第3病棟	整形外科、泌尿器科	48
第5病棟	【地域包括ケア】	40
第6病棟	休棟	—
第7病棟	休棟	—
第8病棟	内科（消化器）、外科、耳鼻咽喉科、形成外科、緩和ケア、人間ドック	54
第10病棟	内科（呼吸器）、脳神経外科、感染症室	54
第11病棟	内科（循環器）、内科（呼吸器）	54
I C U		4
計		343

## 新病院の病棟別病床数（計画）

病棟	診療科	計
3階東	【地域包括ケア】（緩和ケア含む）	50
4階東	小児科、整形外科、泌尿器科	41
4階西	整形外科（女性）、産婦人科、眼科	38
5階東	内科（消化器）、形成外科	48
5階西	内科（循環器）、無菌室、人間ドック	46
6階東	内科（呼吸器）、耳鼻咽喉科、感染症室	47
6階西	外科、脳神経外科	45
地域救命救急センター		10
計		325

最上地域保健医療協議会資料

①現状について

項目	患者数				医療従事者数					
	外来(人)	入院(人)	在院日数	病床稼働率	医師(人)	看護師	臨時看護師	薬剤師	検査技師	リハビリ
年度										
平成28年度	30,229	23,321	36.2	91.3	4	38	3	1	2	3
平成29年度	28,255	19,284	38.4	84.5	4	35	1	1	2	3
平成30年度	27,497	18,980	41.9	86.7	4	31	4	1	2	3

項目	経営状況		
	経常損益	純損益	経常収支比率
年度			
平成28年度	△360,428	△6,173	63.7
平成29年度	△428,169	29,867	59.0
平成30年度	△377,676	65,324	59.8

(単位：千円) (単位：%)

②課題について

項目	事項	事項
患者数	入院患者については、高い病床稼働率となっているが、外来患者においては1日当り5人程度減少している。	
医療従事者数	医師は28年度より1名減となっている。看護師は募集しても応募がない状況であり退職者を臨時看護師として雇用している。但し、今年は3名の応募があった。薬剤師は、全く応募がない状況である。	
経営状況	26年度から繰入金が増加している。5年後病院建設の起債償還が終了するが、2年後電子カルテの更新がある。	

③検討について

項目	事項	事項
診療科目の見直し	内科、外科、整形外科、眼科、婦人科となっており、地理的なことと患者のことを考えると現状維持と考えている。	
病床機能の見直し	地域包括ケア病床など検討していく。	
病床数の見直し	現在は稼働率が高く、今後の動向を見て考えていく。	
収支改善に向けた	看護職員体制を構築し加算等を検討していく。	

①現状（直近3年間の推移）と②課題

（単位：人、日、%、千円）

患者数	H28	H29	H30	課題
外来患者数	49,694	51,024	50,315	外来患者においては年間5万人程度で推移している状況にある。また入院患者については1万7千人程度を推移しており、近年は回復期患者が増加傾向にあることから地域包括ケア病床へ一部転換等の対応を検討している。 患者数が多い状況にあることから、今後も適切な医療提供に努め地域医療を維持していく必要がある。
入院患者数	16,702	16,346	17,025	
計	66,396	67,370	67,340	
平均在院日数	19.7	17.1	18.7	24日以内の基準内にあるものの、今年4～9月の平均は20.0日と若干伸びている傾向にある
病床稼働率	83.2	81.4	84.8	常に80%以上を推移し高い状況にあり、時季によっては満床になることもある
医療従事者	H28	H29	H30	課題
人数	87	85	86	※（年度末現在、非常勤、パート等含む）
確保状況	(看)2名退職 (看臨)1名採用	(看)2名採用 (看)3名退職 (シ技)1名採用	(看)1名採用 (看再)1名 (看)2名退職 (看臨)1名採用 (看臨)1名退職	当院の最優先課題として医師確保に努めている状況にある。また、慢性的な看護師不足の状況にあり、看護師の確保に非常に苦慮している。 ※平成31年4月以降 (医)1名採用、(看)2名採用 (H30退職補充分)、(看臨)1名退職、(看)1名退職、(看)1名採用 (当年度退職補充分)
経営状況	H28	H29	H30	課題
営業損益	▲ 158,955	▲ 145,546	▲ 168,024	来年度以降、電子カルテの導入により保守料、減価償却費等の費用の増加が見込まれ、また高額医療機器の更新も検討しており、同様に費用が増大すると予想されるため、更に一般会計からの繰入に依存せざるを得ない状況にある。今後の一般会計からの繰入に關し町財政担当と協議が必要である。 診療報酬、加算届出等の情報を常に把握し収入確保に留意する必要がある。
経常損益	21,605	3,371	11,626	
純損益	20,011	1,646	4,807	
営業収支比率	82.8	84.3	82.4	
経常収支比率	102.3	100.3	101.2	

### ③検 討

- ・診療科目の見直し

内科及び整形外科においては患者数が多い状況にあり、現時点では見直しは考えていない。

- ・病床機能の見直し

当院としては入院患者の高齢化や認知症患者の増等の状況から、病床数は未定だが現在の一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換し、また一部急性期機能を残しながら全体的に回復期機能への移行も検討していきたい。

- ・病床数の見直し

昨年度の病床利用率が 84.8%と高く、平均在院日数も 18.7 日と 24 日以内の基準内であること、時季や状況によっては満床になる現状から病床数の削減については、今のところ考えられない。

- ・収支改善に向けた検討

未収金対策、他医療機関との連携強化等による医業収益の確保と後発薬の採用による材料費の削減や業務委託の見直し、省エネルギーの機器導入による光熱水費の削減等を継続して取り組みながら、一部病床の地域包括ケア病床への転換等により収支改善を図っていききたいと考えている。

①現状

入院

種別	項目	H30	H29	H28
一般	平均患者数	73.4	75.9	69.3
118	稼働率	62.2%	64.3%	58.7%
障害	平均患者数	34.3	37.7	32
60	稼働率	57.2%	62.8%	53.3%
回復	平均患者数	31.9	32.1	24.4
44	稼働率	72.5%	73.0%	55.5%
療養	平均患者数	31.4	35.1	28.4
48	稼働率	65.4%	73.1%	59.2%
全体	平均患者数	171	180.8	154.1
270	稼働率	63.3%	67.0%	57.1%

外来

	H30	H29	H28
平均患者数	212.2	211.5	214.2

従事者数（常勤）

	H30	H29	H28
全体	243	232	238
再掲)			
医師	6	6	5
歯科医師	2	2	2
看護師	52	46	47
准看護師	15	17	18
介護福祉士	30	31	32
薬剤師	4	4	4
検査技師	7	8	8
放射線技師	4	4	4
臨床工学技士	11	10	11
リハビリ	30	29	28
管理栄養士	3	3	3

4月1日時点

②課題

患者数の減少

- ・入院患者数

医療従事者数の確保

- ・働き方改革への対応
- ・派遣業者経由からの入職におけるコスト増。
- ・勤務医の高齢化

③検討

病床機能および病床数について

## 町立金山診療所

### 1. 現状（直近3年間の推移）

#### 患者数及び経営状況

年度	延べ患者数		1日平均患者数		平均 在院日数	病床利用 率	経営状況	
	入院	外来	入院	外来			医業収支比率	経常収支比率
平成 28	1,718	12,936	4.7	53.2	31.0	24.7	38.6	104.5
29	2,128	12,345	5.8	50.4	21.5	30.7	38.3	103.2
30	3,005	12,293	8.2	50.2	25.8	43.3	39.4	101.7

#### 医業従事者数

	職 種	正職員	臨時職員	確保状況等	備 考
1	医師	2		H30.10 内科医1人	
2	看護師	12			
3	准看護師	2	1		
4	放射線技師	1			
5	理学療法士	2		H31 1人	
6	管理栄養士	1			
7	臨床検査技師		1		
8	薬剤師(委託)				
	計	20	2		

### 2. 課題

- ・入院患者数は増加しているが、外来患者が減少傾向にある。
- ・平均在院の日数は、病床が19床と少ないため、年ごとの傾向も変わるが、長期化の傾向にある。
- ・看護師不足が続き、今後退職者が増加する中、看護師募集を行っても心算がない状況が続いている。
- ・収支改善に向けた努力は行っているものの、一般会計からの繰入金が多額なため、町の財政に大きな負担になっている。

### 3. 検討

- ・小児科の受診が増加しているため、現在の診療日数を検討している。